

病害虫情報(第4号)7月予報

令和3年6月30日
神奈川県農業技術センター

病害虫防除部 TEL 0463 - 58 - 0333
ホームページ <http://www.pref.kanagawa.jp/docs/cf7/cnt/f450002/>

【内容】

- I 7月の主な病害虫の発生予想、防除要否、使用する薬剤例 1
【水稲、カンキツ、ナシ、ブドウ、カキ、チャ、露地トマト、露地キュウリ、ナス、ネギ、イチゴ、抑制トマト、スイカ、カボチャ、メロン】
- II 7月の気象予報と病害虫発生予想の根拠 12

- 農薬使用の際は、必ずラベルの記載事項を確認し、使用基準を遵守するとともに飛散防止に努めましょう。
- 掲載農薬は一般的な場合を想定し、防除効果を優先して選定しています。

※ 農薬に関する情報は、令和3年6月25日までの農薬登録情報に基づいて記載しています。

I 7月の主な病害虫の発生予想、防除要否、使用する薬剤例

【水稲】

生育:並(生産技術部:はるみ)

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
いもち病 (葉いもち)	やや多	△	(予) オリゼメート粒剤 [初発10日前～初発時,14日,2回] 3～4kg/10a (予・治) オリブライト1キロ粒剤 [出穂10日前まで,45日,1回] 1kg/10a (予・治) コラトップ粒剤5 [初発10日前～初発時,2回] 3～4kg/10a 等 ◆ 発生を認めたら直ちに防除する。山間谷戸田等常発地では発生に注意する。
ヒメビウンカ (縞葉枯病)	やや多 (やや多)	△	アルバリン 又は スタークル粒剤 [7日,3回] 3kg/10a トレボン粒剤 [21日,3回] 2～3kg/10a 等 ◆ ヒメビウンカは、縞葉枯病を媒介する。
セジロウンカ	並	△	◆ 5月上中旬植えの水田では、ヒメビウンカの発生状況に応じて追加防除を行う。
トビイロウンカ	—	△	◆ 5月下旬以降植えの水田で箱施薬を行った場合には、この時期の防除は不要だが、ヒメビウンカの今後の発生状況に十分注意する。
ツマグロヨコバイ	やや少	△	◆ イネ縞葉枯病(ヒメビウンカ)に関する防除情報を2021年4月7日に発表している。
イネツトムシ	—	○	パダン粒剤4 [30日,6回] 3～4kg/10a パダンSG水溶剤 [21日,6回] 1,500倍 スミチオン乳剤 [21日,2回] 1,000倍 等 ◆ 6月28日時点で第2世代予測孵化日は平年並。詳細は「防除情報(病害虫情報 号外 第6号)」を参照する。
斑点米カメムシ類	—	—	◆ 斑点米カメムシ類は、畦畔等の雑草で増殖するため、除草を徹底する。 ◆ 水田への飛び込みを防ぐため、出穂10日前頃からの周辺除草は控える。

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

病害虫情報

(令和3年・第4号・7月)

神奈川県農業技術センター

【カンキツ】 生育: やや早(足柄地区事務所根府川分室: 普通温州)

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
黒点病	やや多	○	(予) ジマンダイセン水和剤 又は ペンコゼブ水和剤 みかん:[30日,4回] 400~800倍 みかんを除くかんきつ:[90日,4回] 600~800倍 等 ◆ 前回散布後250mm以上の降雨があれば、薬剤散布を行う。
かいよう病 (中晩柑類)	並	○	(予) コサイド3000 [生育期,-] 2,000倍 + クレフノン [-,-] 200倍 等 ◆ 風傷やミカンハモグリガの食害痕が病原菌の侵入口になる。
チャノキイロ アザミウマ	やや多	○	コルト顆粒水和剤 [前日,3回] 3,000倍 ◆ 隣接する防風垣や茶樹が発生源になりやすい。 等
ミカンハダニ	並	○	マイトコーネフロアブル [7日,1回] 1,000~1,500倍
ミカンサビダニ	-	○	◆ ハダニは2葉に1頭程度に増えたら防除する。 等

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。

【ナシ】 生育: やや早(生産技術部果樹花き研究課: 豊水)

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
黒星病	やや多	○	(予・治) ベルクートフロアブル [14日,5回] 1,500倍 (予・治) ナリアWDG[前日,3回] 2,000倍 ☞ ナリアは混合剤。総使用回数に注意する。 (予・治) ストロビードライフロアブル [前日,3回] 3,000倍 等
ナシヒメシクイ (発生時期)	並 (やや早)	○	アルバリン 又は スタークル顆粒水溶剤 [前日,3回] 2,000倍 アクタラ顆粒水溶剤 [前日,3回] 2,000倍
カメムシ類	並	△	ロディー水和剤 [前日,2回] カメムシ類:1,000倍 シンクイムシ類:1,000~1,500倍 等 ◆ ナシヒメシクイの第3、4世代の幼虫を対象とする防除は、前世代の成虫発生ピーク直後が適期である。本年の防除適期は、7月上~中旬及び8月上旬頃と予想される(小田原、伊勢原)。 ◆ カメムシ類、ナシヒメシクイの発生状況は、ホームページの最新情報を参考にする。
ハダニ類	並	○	ダニゲッターフロアブル [前日,1回] 2,000倍 カネマイトフロアブル [前日,1回] 1,000~1,500倍 等 ◆ 梅雨明け後に防除する。

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。

病害虫情報

(令和3年・第4号・7月) …………… 神奈川県農業技術センター

【ブドウ(大粒種)】

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
べと病	並	○	(予・治) ランマンフロアブル[14日,3回] 1,000~2,000倍 (予) イデクリーン水和剤[-,-] 800倍 (予) Zボルドー[-,-] 500~800倍 + クレフノン [-,-] 100倍 等
黒とう病	並	○	(予) イデクリーン水和剤[-,-] 黒とう病:500倍,晩腐病:400~800倍
晩腐病	—	○	(予・治) オーシャインフロアブル [7日,2回] 黒とう病:2,000倍 等
チャノキイロ アザミウマ	並	○	ディアナWDG [前日,2回] アザミウマ類:5,000~10,000倍 アクタラ顆粒水溶剤 [7日,2回] 2,000倍 等

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。

【カキ】

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
うどんこ病	—	○	(予・治) ストロビードライフロアブル [14日,3回] 3,000倍 等
カキノヘタムシガ	—	○	スミチオン水和剤40 [30日,3回] カキノヘタムシガ:800~1,200倍 カメムシ類:800~1,000倍 アクタラ顆粒水溶剤[3日,3回] 2,000倍
カメムシ類	並	△	テルスターフロアブル [3日,2回] カキノヘタムシガ:3,000倍 カメムシ類:3,000~6,000倍 等
◆ カキノヘタムシガでは、平年の防除適期は8月上旬である。			

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

病害虫情報

(令和3年・第4号・7月) …………… 神奈川県農業技術センター

【チャ】 生育:早(北相地区事務所研究課:やぶきた)

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除 要否	使用する薬剤例 ❖防除のポイント
輪斑病・ 新梢枯死症	並	○	<p>【夏整枝・浅刈り更新直後】 (予) ダコニール1000 [10日,1回] 700~1,000倍</p> <p>(予・治) カスミンボルドー又はカッパーシン水和剤 [30日,1回]1,000倍 等</p> <p>☞ カスミンボルドー及びカッパーシン水和剤は混合剤。総使用回数に注意する。</p> <p>❖ 輪斑病は摘採や整枝のときにできた傷口から感染するため、薬剤散布のタイミングは摘採や整枝後、早ければ早いほど効果的である。</p>
チャノミドリヒメ ヨコバイ	多	○	<p>【夏整枝・浅刈り更新の2週間ほど後】 コルト顆粒水和剤 [7日,2回] 2,000~3,000倍 コテツフロアブル [7日,2回] 2,000倍 等</p>
チャノキイロ アザミウマ	やや多	○	
チャトゲコナジラミ	—	○	

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。

病害虫情報

(令和3年・第4号・7月)

神奈川県農業技術センター

【露地トマト】

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント												
葉かび病	やや少	○	(予・治) アフェットフロアブル [前日,3回] 葉かび病:2,000倍、うどんこ病:2,000~4,000倍												
うどんこ病	—	○	(予・治) パンチョTF顆粒水和剤 [前日,2回] うどんこ病:2,000倍 ☞ パンチョは混合剤。総使用回数に注意する。 (予・治) ベルクートフロアブル [前日,3回] 2,000~4,000倍 (治) サンクリスタル乳剤 [前日,-] うどんこ病:300~600倍 等												
アブラムシ類	やや多	○	アルバリン 又は スタークル顆粒水溶剤 [前日,2回] コナジラミ類:2,000~3,000倍												
コナジラミ類	並	○	コルト顆粒水和剤 [前日,3回] アブラムシ類、コナジラミ類:4,000倍												
オンシツコナジラミ	並	○	ウララDF [前日,3回] アブラムシ類:2,000~4,000倍、												
アザミウマ類	やや多	○	コナジラミ類、ミカンキイロアザミウマ:2,000倍 ディアナSC [前日,2回] コナジラミ類:2,500倍、アザミウマ類:2,500~5,000倍 サンクリスタル乳剤 [前日,-] アブラムシ類、コナジラミ類:300倍 等												
			◆ ウイルス病の感染を防ぐためにも害虫の防除が重要である。 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th>発生するウイルス病</th> <th>媒介する害虫</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>CMV等(モザイク病)</td> <td>アブラムシ類</td> </tr> <tr> <td>TYLCV(トマト黄化葉巻病)</td> <td>コナジラミ類</td> </tr> <tr> <td>ToCV(トマト黄化病)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>TSWV(トマト黄化えそ病)</td> <td>アザミウマ類</td> </tr> <tr> <td>CSNV(トマト茎えそ病)</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	発生するウイルス病	媒介する害虫	CMV等(モザイク病)	アブラムシ類	TYLCV(トマト黄化葉巻病)	コナジラミ類	ToCV(トマト黄化病)		TSWV(トマト黄化えそ病)	アザミウマ類	CSNV(トマト茎えそ病)	
発生するウイルス病	媒介する害虫														
CMV等(モザイク病)	アブラムシ類														
TYLCV(トマト黄化葉巻病)	コナジラミ類														
ToCV(トマト黄化病)															
TSWV(トマト黄化えそ病)	アザミウマ類														
CSNV(トマト茎えそ病)															
			◆ ウイルス病発病株は抜き取り、土中に埋めるなど適切に処分する。												
オオタバコガ	やや多	○	ディアナSC [前日,2回] 2,500~5,000倍 プレバソンフロアブル5 [前日,3回] 2,000倍 アフームエクセラ顆粒水和剤 [前日,2回] 1,500倍 ☞ アフームエクセラは混合剤。総使用回数に注意する。 等												
			◆ 極端に着色の早い果実には、幼虫が食入している可能性がある のでよく確認し捕殺する。												

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。

病害虫情報

(令和3年・第4号・7月)

神奈川県農業技術センター

【露地キュウリ】

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除 要否	使用する薬剤例 ❖ 防除のポイント										
べと病	やや多	○	(予・治) ベトファイター顆粒水和剤 [前日,3回] 2,000~3,000倍 ☞ ベトファイターは混合剤。総使用回数に注意する。 (予・治) ライメイフロアブル [前日,4回] 2,000~4,000倍 (予・治) ハチハチ乳剤 [前日,2回] 1,000倍 等 ❖ 肥料切れや成り込みによる草勢低下は、発生を助長させる。										
うどんこ病	並	○	(予・治) アフェットフロアブル [前日,3回] 2,000倍 (予・治) パンチョTF顆粒水和剤 [前日,2回] 2,000倍 ☞ パンチョは混合剤。総使用回数に注意する。 (予・治) ハチハチ乳剤 [前日,2回] 1,000倍 等										
アブラムシ類	やや多	○	アルバリン 又は スタークル顆粒水溶剤 [前日,2回] アブラムシ類、コナジラミ類:2,000~3,000倍、 アザミウマ類:2,000倍 グレーシア乳剤 [前日,2回] コナジラミ類、アザミウマ類:2,000倍 ウララDF [前日,3回] アブラムシ類:2,000~4,000倍、コナジラミ類:2,000倍 ハチハチ乳剤 [前日,2回] 1,000~2,000倍 等										
コナジラミ類	並	○											
オンシツ コナジラミ		○											
タバコ コナジラミ	並	○											
アザミウマ類	並 やや多	○	❖ ウイルス病の感染を防ぐためにも害虫の防除が重要である。 <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>発生するウイルス病</th> <th>媒介する害虫</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>CMV等(モザイク病)</td> <td>アブラムシ類</td> </tr> <tr> <td>CCYV(退緑黄化病)</td> <td>コナジラミ類</td> </tr> <tr> <td>BPYV(キュウリ黄化病)</td> <td>アザミウマ類</td> </tr> <tr> <td>MYSV, WSMoV (キュウリ黄化えそ病)</td> <td>アザミウマ類</td> </tr> </tbody> </table>	発生するウイルス病	媒介する害虫	CMV等(モザイク病)	アブラムシ類	CCYV(退緑黄化病)	コナジラミ類	BPYV(キュウリ黄化病)	アザミウマ類	MYSV, WSMoV (キュウリ黄化えそ病)	アザミウマ類
発生するウイルス病		媒介する害虫											
CMV等(モザイク病)	アブラムシ類												
CCYV(退緑黄化病)	コナジラミ類												
BPYV(キュウリ黄化病)	アザミウマ類												
MYSV, WSMoV (キュウリ黄化えそ病)	アザミウマ類												
ミナミキイロ アザミウマ ミカンキイロ アザミウマ	○	❖ ウイルス病発病株は抜き取り、土中に埋めるなど適切に処分する。 ❖ 栽培終了後の作物が、ウイルス病の感染源とならないよう速やかに片付ける。											

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。

病害虫情報

(令和3年・第4号・7月) …………… 神奈川県農業技術センター

【ナス】

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
うどんこ病	並	○	(予・治) アフェットフロアブル [前日,3回] 2,000倍 (予・治) アミスターオプティフロアブル [前日,4回] 1,000倍 ☞ アミスターオプティは混合剤。総使用回数に注意する。 (治) サンクリスタル乳剤 [前日,-] 300~600倍 等
アザミウマ類	並	○	アルバリン 又は スタークル顆粒水溶剤 [前日,2回] 2,000倍 コテツフロアブル [前日,4回] 2,000倍 ファインセーブフロアブル [前日,3回] 1,000~2,000倍 等
ミナミキイロ アザミウマ ミカンキイロ アザミウマ	並	○	
オオタバコガ	やや多	○	コテツフロアブル [前日,4回] 2,000倍 プレバソンフロアブル5 [前日,2回] 2,000倍 マッチ乳剤 [前日,4回] 2,000倍 等
ハダニ類	並	○	コテツフロアブル [前日,4回] 2,000倍 カネナイトフロアブル [前日,1回]
チャノホコリダニ	並	○	ハダニ類:1,000~1,500倍、チャノホコリダニ:1,000倍 サンクリスタル乳剤 [前日,-] 300~600倍 等

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。

【ネギ】

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
さび病	並	○	(予) ダコニール1000 [14日,3回] 1,000倍 (予・治) ストロビーフロアブル [7日,3回] 2,000倍 等
ネギアザミウマ	並	○	【生育期:株元散布】 ダントツ粒剤 [3日,4回] ネギアザミウマ:3~6kg/10a
シロイチモジヨトウ	—	△	【生育期:散布】 ディアナSC [前日,2回] 2,500~5,000倍 アフームエクセラ顆粒水和剤 [7日,3回] ネギアザミウマ:1,000倍、シロイチモジヨトウ:1,000~1,500倍 ☞ アフームエクセラは混合剤。総使用回数に注意する。 ボタニガードES [発生初期,-] アザミウマ類:500~1,000倍 ☞ ボタニガードは散布後の湿度を保つため、夕方あるいは曇天時や梅雨が明ける前の時期に散布する。 ◆ ネギは薬液をはじきやすいため、水溶剤や水和剤には展着剤を加用し、薬液が十分付着するように散布する。

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

病害虫情報

(令和3年・第4号・7月)

..... 神奈川県農業技術センター

【イチゴ】

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
炭疽病	—	○	<p>【育苗期】</p> <p>(予) タフパール [育苗期～前日, —] 2,000～4,000倍 (予) アントラコール顆粒水和剤 [仮植栽培期, 6回] 500倍 (予) セイビアーフロアブル20 [前日, 3回] 1,000倍 (予) ジマンダイセン水和剤又はペンコゼブ水和剤 [仮植栽培期(但し収穫76日前), 6回] 600倍 (予・治) ベルクートフロアブル [育苗期(定植前), 5回] 1,000倍 (予・治) ゲッター水和剤 [収穫開始21日前, 3回] 1,000倍</p> <p>☞ ゲッターは混合剤。総使用回数に注意する。</p> <p>◆ 10～14日間隔でローテーション散布する。発病が見られる場合は散布間隔を4～7日間隔程度に短縮する。 ◆ 発病した株への治療効果は期待できないので、発病株とその隣接株は速やかに処分する。</p>
うどんこ病	—	○	<p>【育苗期】</p> <p>(予) タフパール [発病前～発病初期, —] 2,000～4,000倍 (予) サンヨール [前日, 6回] 500～1,000倍 (治) カリグリーン [前日, —] 800～1,000倍 (予・治) ポリオキシシンAL水和剤 [収穫開始14日前, 3回] 1,000倍 (予・治) ベルクートフロアブル [育苗期(定植前), 5回] 1,000倍</p> <p>◆ うどんこ病は育苗期からの防除が重要である。 ◆ 高温期には、白い粉状の病斑が見られず、赤紫色の壊死斑となるが病原菌は残存している。 ◆ 本圃に発病株を持ち込まないよう、壊死斑も含めて発病葉をできるかぎり除去し、防除を徹底する。 ◆ 10～14日間隔でローテーション散布する。発病が見られる場合は散布間隔を4～7日間隔程度に短縮する。</p>
ハダニ類	—	○	<p>【育苗期】</p> <p>コロマイト水和剤 [前日, 2回] 2,000倍 サンクリスタル乳剤 [前日, —] 300～600倍 エコピタ液剤 [前日, —] 100倍</p> <p>◆ サンクリスタルなどの気門封鎖剤は、ハダニ類が多発している場合、3日程度の間隔で複数回散布する。</p>

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
 [使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

タフパールと上記掲載剤の混用事例および散布間隔(メーカー技術資料より抜粋)

<p>▶ ポリオキシシン、コロマイト、サンクリスタル:混用事例あり セイビアー、サンヨール、カリグリーン:3日以上 アントラコール、ジマンダイセン、ゲッター:7日以上、ベルコート水和剤:10日以上</p>
--

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。

病害虫情報

(令和3年・第4号・7月)

神奈川県農業技術センター

【抑制トマト】

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ❖防除のポイント												
コナジラミ類 オンシツ コナジラミ タバコ コナジラミ	並 並	○ ○	<p>【育苗期:粒剤施用】 アルバリン 又は スタークル粒剤 [育苗期,1回:株元散布] コナジラミ類:1~2g/株 ベストガード粒剤 [育苗期,1回:株元処理] コナジラミ類:1~2g/株</p> <p>【育苗期後半~定植時:粒剤施用又は灌注】 プリロン粒剤 [育苗期後半~定植時,1回:株元散布] 2g/株 又はベリマークSC [育苗期後半~定植当日,1回:灌注] 原液25mlを10~20Lに希釈/400株</p>												
アザミウマ類	やや多	○	<p>【育苗期:散布】 ディアナSC [前日,2回] コナジラミ類:2,500倍、アザミウマ類:2,500~5,000倍 ファインセーブフロアブル [前日,3回] タバココナジラミ類(シルバーリーフコナジラミを含む)、アザミウマ類:1,000~2,000倍</p> <p>❖ ウイルス病の感染を防ぐためにも害虫の防除が重要である。</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>発生するウイルス病</th> <th>媒介する害虫</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>CMV等(モザイク病)</td> <td>アブラムシ類</td> </tr> <tr> <td>TYLCV(トマト黄化葉巻病)</td> <td>コナジラミ類</td> </tr> <tr> <td>ToCV(トマト黄化病)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>TSWV(トマト黄化えそ病)</td> <td>アザミウマ類</td> </tr> <tr> <td>CSNV(トマト茎えそ病)</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>❖ ウイルス病発病株は抜き取り、土中に埋めるなど適切に処分する。</p>	発生するウイルス病	媒介する害虫	CMV等(モザイク病)	アブラムシ類	TYLCV(トマト黄化葉巻病)	コナジラミ類	ToCV(トマト黄化病)		TSWV(トマト黄化えそ病)	アザミウマ類	CSNV(トマト茎えそ病)	
発生するウイルス病	媒介する害虫														
CMV等(モザイク病)	アブラムシ類														
TYLCV(トマト黄化葉巻病)	コナジラミ類														
ToCV(トマト黄化病)															
TSWV(トマト黄化えそ病)	アザミウマ類														
CSNV(トマト茎えそ病)															

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。

病害虫情報

(令和3年・第4号・7月)

神奈川県農業技術センター

▼三浦半島地区野菜▼

【スイカ】

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
つる枯病	やや多	○	(予) アントラコール顆粒水和剤 [前日,4回] 400~600倍 (予・治) ポリベリン水和剤 [前日,4回] 1,000倍 ☞ ポリベリンは混合剤。総使用回数に注意する。 (予・治) シグナムWDG [前日,3回] 1,500~2,000倍 ☞ シグナムは混合剤。総使用回数に注意する。 等
炭疽病	並	○	◆ 降雨による土砂のはねかえりは感染、発病の原因となる。
うどんこ病	並	○	(予・治) パンチョTF顆粒水和剤 [前日,2回] 2,000倍 ☞ パンチョは混合剤。総使用回数に注意する。 (予・治) シグナムWDG [前日,3回] 1,500~2,000倍 ☞ シグナムは混合剤。総使用回数に注意する。 等
アブラムシ類	やや多	○	ハチハチフロアブル [前日,2回] アブラムシ類:1,000~2,000倍、アザミウマ類:1,000倍
アザミウマ類	並	○	ウララDF [前日,2回] アブラムシ類:2,000~4,000倍 スピノエース顆粒水和剤 [前日,2回] アザミウマ類:5,000倍 アフーム乳剤 [前日,3回] アザミウマ類:1,000~2,000倍 グレーシア乳剤 [前日,2回] アザミウマ類:2,000倍 等
ハダニ類	やや少	○	ダニサラバフロアブル [前日,2回] 1,000倍 グレーシア乳剤 [前日,2回] 2,000倍 等

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。

【カボチャ】

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
疫病	—	○	(予・治) フォリオゴールド [7日,3回] 疫病:1,000倍 ☞ フォリオゴールドは混合剤。総使用回数に注意する。 (予・治) プロポーズ顆粒水和剤 [7日,3回] 1,000倍 ☞ プロポーズは混合剤。総使用回数に注意する。
うどんこ病	並	○	(予・治) パンチョTF顆粒水和剤 [前日,2回] うどんこ病:2,000倍 ☞ パンチョは混合剤。総使用回数に注意する。 等 ◆ 薬剤散布では、地表面に接する茎や果実に薬剤が付着するように散布する。

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。

病害虫情報

(令和3年・第4号・7月)

..... 神奈川県農業技術センター

▼三浦半島地区野菜▼

【メロン】

病害虫名	発生 予想 (平年比)	防除 要否	使用する薬剤例	
			◆防除のポイント	
うどんこ病	並	○	(予・治) ベルコート水和剤 [前日,5回] うどんこ病、つる枯病:1,000倍 (予・治) フオリオゴールド [3日,3回]	
つる枯病	やや多	○	うどんこ病、つる枯病:800倍、べと病:800~1,000倍 ☞ フオリオゴールドは混合剤。総使用回数に注意する。	等
べと病	—	○	(予・治) パンチョTF顆粒水和剤 [前日,2回] うどんこ病:2,000倍 ☞ パンチョは混合剤。総使用回数に注意する。 ◆ つる枯病は、多湿条件で発生しやすい。	

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。

病害虫情報

(令和3年・第4号・7月)

神奈川県農業技術センター

II 7月の気象予報と病害虫発生予報の根拠

(1) 7月の気象予報(気象庁 6月25日発表3か月予報)

〈天 気〉

期間の前半は、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。期間の後半は、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

〈要素別予報〉

	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
気 温	30%	30%	40%
降 水 量	30%	40%	30%
日照時間*	40%	40%	20%

*6月24日発表1か月予報による。

(2) 7月の病害虫発生予報の根拠

作物名	病害虫名	発生量		予報の根拠
		程度	平年比	
水稲	いもち病 (葉いもち)	少	やや多	1) アメダスデータを元に計算した葉いもち病感染好適日の出現は、6月28日現在、平年より多い。(+) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並、日照時間は平年並か少ない予報。(±)
	ヒメビウンカ (縞葉枯病)	少	やや多 (やや多)	1) 巡回調査では、発生が平年より多い。(+) 2) 予察灯への誘殺数は、平年並。(±) 3) ヒメビウンカ越冬世代におけるイネ縞葉枯病ウイルス保毒虫率は、平年並。(±) 4) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(±)
	セジロウンカ	少	並	1) 予察灯への誘殺は見られず、平年並。(±) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(±)
	ツマグロヨコバイ	少	やや少	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 予察灯への誘殺数は、平年より少ない(-)。 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(±)
カンキツ	黒点病	少	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年より多い。(+) 2) 県予察ほ(根府川)では、春葉での発生が平年並。(±) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(±)
	そうか病	少	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年より多い。(+) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(±)
	かいよう病	中	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 県予察ほ(根府川)では、春葉での発生が平年並。(±) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(±)
	ミカンハダニ	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 県予察ほ(根府川)では、発生が平年並。(±) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(±)
	チャノキイロアザミウマ	少	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年より多い。(+) 2) 県予察ほ(根府川)の黄色粘着板による調査では、誘殺が平年並。(±) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(±)

※「発生量」……………程度:甚>多>中>少>無 平年比:多>やや多>並>やや少>少
「予報の根拠」……………(+):多発要因 (-):少発要因

病虫害情報

(令和3年・第4号・7月)

..... 神奈川県農業技術センター

作物名	病虫害名	発生量		予報の根拠
		程度	平年比	
ナシ	黒星病	少	やや多	1) 巡回調査では、徒長枝での発生が平年よりやや多い。(+) 2) 巡回調査では、短果枝での発生は平年並。(±) 3) 県予察ほ(上吉沢)では、徒長枝での発病は見られず、発生が平年並。(±) 4) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(±)
	アブラムシ類	少	やや少	1) 巡回調査では、発生が平年より少ない。(－) 2) 県予察ほ(上吉沢)では、寄生は見られず、発生が平年より少ない。(－) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(＋)
	ナシヒメシクイ (発生時期)	－ －	並 (やや早)	1) フェロモントラップへの第1世代誘殺数は、県予察ほ(上吉沢)と大井では平年並(±)、伊勢原では平年よりやや多い(+) 2) 第2世代成虫の発生ピークは、有効積算温度等によるシミュレーションから、7月上中旬頃と予測される。 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(＋)
	ニセナシサビダニ	少	並	1) 巡回調査では、モザイク症状を含めた発生が平年並。(±) 2) 県予察ほ(上吉沢)では、寄生は見られず、発生が平年よりやや少ない。(－) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(＋)
	ハダニ類	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 県予察ほ(上吉沢)では、寄生は見られず、発生が平年並。(±) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(＋)
ブドウ	べと病	少	並	1) 巡回調査では、発病は見られず、発生が平年並。(±) 2) 県予察ほ(上吉沢)では、発病は見られず、発生が平年よりやや少ない。(－) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(±)
	黒とう病	－	並	1) 巡回調査では、発病は見られず、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 県予察ほ(上吉沢)では、発病は見られず、発生が平年より少ない。(－) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(±)
	チャノキイロアザミウマ	－	並	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや多い。(＋) 2) 県予察ほ(上吉沢)では、被害は見られず、発生が平年よりやや少ない。(－) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(＋)
果樹全般	カメムシ類	－	並	1) フェロモントラップへの誘殺数は、伊勢原では平年より少なく(－)、南足柄では平年よりやや多く(+)、県予察ほ(根府川)では平年より多い。(＋) 2) 予察灯への誘殺数は、山北では平年よりやや少なく(－)、県予察ほ(根府川)では平年より少ない(－)。 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(＋)

※「発生量」..... 程度: 甚>多>中>少>無 平年比: 多>やや多>並>やや少>少
「予報の根拠」..... (+): 多発要因 (－): 少発要因

病害虫情報

(令和3年・第4号・7月)

..... 神奈川県農業技術センター

作物名	病害虫名	発生量		予報の根拠
		程度	平年比	
チャ	輪斑病 新梢枯死症	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年より多い。(+) 2) 県予察ほ(寸沢嵐)では、発病は見られず、発生が7年平均値並。(±) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(±)
	炭疽病	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年より多い。(+) 2) 県予察ほ(寸沢嵐)では、発病は見られず、発生が平年より少ない。(－) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(±)
	チャノキイロアザミウマ	少	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 叩き出し調査では、落下虫数が平年よりやや多い。(+) 3) 県予察ほ(寸沢嵐)では、落下虫数が平年より多い。(+) 4) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(±)
	チャノミドリヒメヨコバイ	中	多	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや多い。(+) 2) 叩き出し調査では、落下虫数が平年より多い。(+) 3) 県予察ほ(寸沢嵐)では、落下虫数が平年より多い。(+) 4) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(±)
	チャノホソガ	少	やや少	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 予察灯(山北)への誘殺数は、平年より少ない。(－) 3) フェロモントラップの誘殺数は、山北、県予察ほ(寸沢嵐)ともに発生が平年並。(±) 4) 県予察ほ(寸沢嵐)では、被害は見られず、発生が平年より少ない。(－) 5) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(±)
	ハマキムシ類	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 予察灯(山北)への誘殺数は、平年並。(±) 3) フェロモントラップの誘殺数は、山北で平年並(±)、県予察ほ(寸沢嵐)で平年並(±) 4) 県予察ほ(寸沢嵐)では、発生が平年並。(±) 5) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(±)
	カンザワハダニ	少	やや少	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 叩き出し調査では、落下虫数が平年並。(±) 3) 県予察ほ(寸沢嵐)では、発生が平年より少ない。(－) 4) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(±)

※「発生量」..... 程度: 甚>多>中>少>無 平年比: 多>やや多>並>やや少>少

「予報の根拠」..... (+): 多発要因 (－): 少発要因

病害虫情報

(令和3年・第4号・7月)

..... 神奈川県農業技術センター

作物名	病害虫名	発生量		予報の根拠
		程度	平年比	
露地トマト	葉かび病	少	やや少	1) 巡回調査では、発病は見られず、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(±)
	アブラムシ類	少	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 県予察ほ(上吉沢)の黄色水盤への飛来量は平年よりやや多い。(＋) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(＋)
	オンシツコナジラミ タバココナジラミ	少 少	並 並	1) 巡回調査では、オンシツコナジラミ、タバココナジラミともに寄生は見られず、発生が平年よりやや少ない(－)。 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(＋)
	アザミウマ類	少	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年より多い。(＋) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(＋)
	ハモグリバエ類	少	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや多い。(＋) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(＋)
露地 キュウリ	べと病	中	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年より多い。(＋) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(±)
	うどんこ病	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(±)
	アブラムシ類	少	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 県予察ほ(上吉沢)の黄色水盤への飛来量は平年よりやや多い。(＋) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(＋)
	オンシツコナジラミ タバココナジラミ	少 少	並 並	1) 巡回調査では、オンシツコナジラミの発生は平年並(±)、タバココナジラミの発生が平年よりやや少ない(－)。 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(＋)
	ミナミキイロアザミウマ ミカンキイロアザミウマ	少 少	並 やや多	1) 巡回調査では、ミナミキイロアザミウマの寄生は見られず、発生が平年よりやや少なく(－)、ミカンキイロアザミウマの発生が平年より多い(＋)。 2) 青色粘着板への捕虫数は、ミナミキイロアザミウマ、ミカンキイロアザミウマとも平年より多い。(＋) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(＋)

※「発生量」..... 程度: 甚>多>中>少>無 平年比: 多>やや多>並>やや少>少
「予報の根拠」..... (＋): 多発要因 (－): 少発要因

病虫害情報

(令和3年・第4号・7月)

..... 神奈川県農業技術センター

作物名	病虫害名	発生量		予報の根拠
		程度	平年比	
ナス	うどんこ病	少	並	1) 巡回調査では、発病は見られず、発生が平年並。(±) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(±)
	アブラムシ類	少	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 県予察ほ(上吉沢)の黄色水盤への飛来量は平年よりやや多い。(+) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(+)
	ミナミキイロアザミウマ ミカンキイロアザミウマ	少 少	並 並	1) 巡回調査では両種とも寄生は見られず、発生は平年よりやや少ない(-)。 2) 青色粘着板への捕虫数は、ミナミキイロアザミウマ、ミカンキイロアザミウマとも平年より多い。(+) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(+)
	ハモグリバエ類	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(-) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(+)
	ハダニ類	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年より少ない。(-) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(+)
	チャノホコリダニ	少	並	1) 巡回調査では、被害は見られず、発生が平年並。(±) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(+)
	ネギ	さび病	少	並
ネギアザミウマ		多	並	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(-) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(+)
抑制トマト	オンシツコナジラミ タバココナジラミ	- -	並 並	1) 露地トマトの巡回調査では、オンシツコナジラミ、タバココナジラミともに寄生は見られず、発生が平年よりやや少ない(-)。 2) 露地キュウリの巡回調査では、オンシツコナジラミの発生は平年並(±)、タバココナジラミの発生は平年よりやや少ない(-)。 3) ナスの巡回調査では、オンシツコナジラミの発生は平年よりやや多く(+)、タバココナジラミの発生は平年並(±)。 4) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(+)
	アザミウマ類	-	やや多	1) 露地トマトの巡回調査では、発生が平年より多い。(+) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(±)

※「発生量」..... 程度: 甚>多>中>少>無 平年比: 多>やや多>並>やや少>少

「予報の根拠」..... (+): 多発要因 (-): 少発要因

病害虫情報

(令和3年・第4号・7月)

..... 神奈川県農業技術センター

作物名	病害虫名	発生量		予報の根拠
		程度	平年比	
露地野菜 全般	ハスモンヨトウ	—	やや多	1) フェロモントラップへの誘殺数は、三浦で平年並(±)、横浜で平年より少なく(-)、伊勢原で平年より多い(+) 2) 県予察ほ(上吉沢、三浦)のフェロモントラップへの誘殺数は平年並。(±) 3) フェロモントラップへの5月下旬の誘殺ピーク時の誘殺数が伊勢原、横浜、三浦ともに平年より多い。(+) 4) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(+)
	オオタバコガ	—	やや多	1) 巡回調査では、露地トマトでは発生が平年並(±)、ナスでの発生は平年よりやや多い(+) 2) フェロモントラップへの誘殺数は、横浜と伊勢原で平年並(±)、三浦で平年より多い(+) 3) 県予察ほのフェロモントラップへの誘殺数は、上吉沢では平年よりやや少なく(-)、三浦では平年並(±) 4) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(+)

三浦半島地区野菜

病害虫名	(作物名)	発生量		予報の根拠
		程度	平年比	
つる枯病	(スイカ) (メロン)	少	やや多	1) 巡回調査では、スイカでは発生が平年並(±)、メロンでは発生が平年より多い(+) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(±)
		多	やや多	
炭疽病	(スイカ)	少	並	1) 巡回調査では、発病は見られず、発生が平年並。(±) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(±)
うどんこ病	(スイカ) (カボチャ) (メロン)	少	並	1) 巡回調査では、スイカでは発病は見られず、発生が平年並(±)、カボチャでは発生が平年よりやや少なく(-)、メロンでは発生が平年並(±) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(±)
		中 中	並 並	
アブラムシ類	(スイカ)	少	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや多い。(+) 2) 県予察ほ(三浦)の黄色水盤への飛来量は平年並。(±) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(+)
アザミウマ類	(スイカ)	中	並	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(-) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(+)
ハダニ類	(スイカ)	少	やや少	1) 巡回調査では、発生が平年より少ない。(-) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(+)

※ 「発生量」..... 程度: 甚>多>中>少>無 平年比: 多>やや多>並>やや少>少
「予報の根拠」..... (+): 多発要因 (-): 少発要因

(別表)

耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。

★カンキツ★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いため、1年間での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - ▶ QoI剤(ストロビー、ファンタジスタ)
 - QoI剤とその他の殺菌剤の混用は1年2回
 - 単剤あるいはSDHI剤との混合剤(ナリア)の場合:1年1回
 - その他の殺菌剤との混用の場合:1年2回

★ナ シ★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いため、1年間での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - ▶ QoI剤(ストロビー、ナリア、ファンタジスタ)
 - QoI剤とその他の殺菌剤の混用は1年2回
 - 単剤あるいはSDHI剤他との混用の場合:1年2回
 - ▶ SDHI剤(フルーツセイバー)
 - 単剤あるいはQoI剤他との混用の場合:1年2回
- DMI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクがあるので、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - 単剤(インダー、スコア、アンビル)の場合:1作2回
 - DMI剤以外の殺菌剤との混用の場合:1作3回

★ブドウ★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いため、1年間での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - ▶ QoI剤(ホライズン)
 - QoI剤とその他の殺菌剤の混用は1年2回
 - 単剤あるいはSDHI剤との混用の場合:1年1回
 - SDHI剤以外の殺菌剤との混用や混合剤(ホライズン)の場合:1年2回
 - ▶ SDHI剤(フルーツセイバー、カナメ)
 - 単剤あるいはQoI剤との混用の場合:1年1回
 - QoI剤以外の殺菌剤との混用や混合剤の場合:1年2回
- DMI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクがあるので、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - 単剤(オーシャイン、オンリーワン)の場合:1作1回
 - DMI剤以外の殺菌剤との混用の場合:1作2回

★チャ★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いため、1年間での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - ▶ QoI剤(アミスター20、ストロビー、ファンタジスタ)
 - 単剤の場合:1年1回
 - その他の殺菌剤との混用の場合:1年2回

★トマト★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - ▶ QoI剤(ファンタジスタ)
 - 単剤あるいはSDHI剤との混用の場合:1作1回
 - SDHI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(ホライズン)の場合:1作2回
 - ▶ SDHI剤(アフェット、カンタス)
 - 単剤あるいはQoI剤との混用の場合:1作1回
 - QoI剤以外の殺菌剤との混用の場合:1作2回
- DMI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクがあるので、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - 単剤(トリフミン)の場合:1作2回
 - DMI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(テーク、パンチョ)の場合:1作3回
- CAA系薬剤は、薬剤耐性菌発生のリスクがあるので、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - 単剤(フェスティバル水和剤等)の場合:1作1回
 - CAA系薬剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(プロポーズ、ベトファイター)の場合:1作2回

★キュウリ★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - ▶ QoI剤(アミスター20、ファンタジスタ)
 - 単剤あるいはSDHI剤との混用の場合:1作1回
 - SDHI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(アミスターオブティ、ファンベル、ホライズン)の場合:1作2回
 - ▶ SDHI剤(アフェット、カンタス)
 - 単剤あるいはQoI剤との混用の場合:1作1回
 - QoI剤以外の殺菌剤との混用の場合:1作2回
- CAA系薬剤は、薬剤耐性菌発生のリスクがあるので、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - 単剤(フェスティバル水和剤等)の場合:1作1回
 - CAA系薬剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(プロポーズ、ベトファイター)の場合:1作2回

★ナス★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - ▶ QoI剤(アミスター20、ストロビー)
 - 単剤あるいはSDHI剤との混用の場合:1作1回
 - SDHI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(アミスターオプティ、ホライズン)の場合:1作2回
 - ▶ SDHI剤(アフエット、カンタス)
 - 単剤あるいはQoI剤との混用の場合:1作1回
 - QoI剤以外の殺菌剤との混用の場合:1作2回

★イチゴ★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - ▶ QoI剤(アミスター20、ストロビー)
 - 単剤あるいはSDHI剤との混用の場合:1作1回
 - SDHI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(アミスターオプティ、ホライズン)の場合:1作2回
 - ▶ SDHI剤(アフエット、カンタス)
 - 単剤あるいはQoI剤との混用の場合:1作1回
 - QoI剤以外の殺菌剤との混用の場合:1作2回
- DMI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクがあるため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - 単剤(スコア、トリフミン、ラリー)の場合:1作1回
 - DMI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(パンチョ)の場合:1作2回
 - 単剤と混用もしくは混合剤を組み合わせる場合:1作に単剤1回+混用または混合剤1回

★スイカ★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - ▶ QoI剤
 - 単剤あるいはSDHI剤との混用、混合剤(シグナム)の場合:1作1回
 - SDHI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤の場合:1作2回
 - ▶ SDHI剤
 - 単剤あるいはQoI剤との混用、混合剤(シグナム)の場合:1作1回
 - QoI剤以外の殺菌剤との混用の場合:1作2回
- CAA系薬剤は、薬剤耐性菌発生のリスクがあるため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - 単剤の場合:1作1回
 - CAA系薬剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(プロポーズ)の場合:1作2回
- DMI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクがあるため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - 単剤(スコア)の場合:1作1回
 - DMI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(パンチョ)の場合:1作2回
 - 単剤と混用もしくは混合剤を組み合わせる場合:1作に単剤1回+混用または混合剤1回

★カボチャ★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- CAA系薬剤は、薬剤耐性菌発生のリスクがあるため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - 単剤の場合:1作1回
 - CAA系薬剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(プロポーズ)の場合:1作2回
- DMI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクがあるため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - 単剤の場合:1作1回
 - DMI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(パンチョ)の場合:1作2回
 - 単剤と混用もしくは混合剤を組み合わせる場合:1作に単剤1回+混用または混合剤1回

★メロン★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- CAA系薬剤は、薬剤耐性菌発生のリスクがあるため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - 単剤の場合:1作1回
 - CAA系薬剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(プロポーズ)の場合:1作2回
- DMI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクがあるため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - 単剤(スコア)の場合:1作1回
 - DMI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(パンチョ)の場合:1作2回
 - 単剤と混用もしくは混合剤を組み合わせる場合:1作に単剤1回+混用または混合剤1回